



図書だより NO.8



今年度も残すところ2ヶ月となりました。2月3日は立春です。立春とは、二十四節気の最初の節気で、旧暦では新しい一年の始まりを意味します。暦の上では春の始まりです。しかし、冬の寒さは二月がピークとなります。まだまだ、寒さは続きますが、体調管理に気を付けて今年度やり残したことを消化していきましょう。バレンタインにむけてレシピ本のコーナーも作っているのでぜひ、足を運んでみてください。

新しい本



タイトル	著者	出版者
オルタネート	加藤シゲアキ	新潮社
自転車に乗って	伊藤礼 他	河出書房新社
日本型システムの終焉	上田紀行	法蔵館
今日の空が一番好き、とまだ言えない僕は	福德秀介	小学館
のっけから失礼します	三浦しをん	集英社
生まれたことすら、自分の気まぐれ	佐藤そと	KADOKAWA
何がおかしい	佐藤愛子	中央公論新社
ブラックショーマンと名もなき町の殺人	東野圭吾	光文社
私はあなたの記憶の中に	角田光代	小学館文庫
平気なふりをしている心へ	そらの瑠璃色	幻冬舎
世界音痴	穂村弘	小学館文庫
リセット	上原健志	笠倉出版社

その他多数入っています。詳しくは学校 HP をご覧ください。

本屋大賞ノミネート作品



オルタネート

加藤シゲアキ/新潮社



逆ソクラテス

伊坂幸太郎/集英社



お探し物は図書室まで

青山美智子/ポプラ社

推し、燃ゆ/宇佐見りん/河出書房新社

「推しが燃えた。ファンを殴ったらしい」から始まる芥川賞受賞、本屋大賞ノミネートの話題の一冊です。日常に生きづらさを感じる女子高生の主人公が立っているのは、「推し」という背骨があるから。突然その背骨を抜かれた痛み、苦しみは「推し」がいる人にはよくわかるのではないのでしょうか。部活であったり趣味であったり何か熱中しているものがある人にも置き換えて読むことができると思います。逃避や依存その裏には、自己肯定感の低さや周囲の理解など様々な要因が隠れていることを改めて感じました。表現がリアルで一文一文がとても重くのしかかってきますが、最後の場面でほんの小さな希望が見えます。彼女がまた、歩き出せる日が来ることを願いながら読み終わりました。皆さんにとっての、生きる意味、自分の存在価値は何でしょうか。人それぞれ違います。ゆっくりでもそんな自分を認め、彼女のように這いつくばりながらも生きていければと思います。

